間の陜處なれば、樹木蕃茂て常に淺闇し、故に斯く冠らせしならん、○略中

追録、奈麻與美の甲斐と云る事を、黒川春村の考には、奈麻與美はなみやまの轉語にて、並山の間といへる義なるべしと云り、

〔萬葉集枕詞解四〕なまよみの　かひのくに

卷三二十七丁長歌に、奈麻余美乃、甲斐乃國　此はまづ奈麻余美乃は、生善肉之なるべし、甲斐とかゝるは貝の意なり、貝は鰒螺などをむねと云ことにして、其は生の肉を作身など云ものにして食ふが、殊更に味善きものなればかくいへり、善きものを善某と云例は、吉詞吉事など云是なり、肉をミといふは、いはゆる作肉、刺肉など云るにて知べし、

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

甲斐府中、柳町二丁目極高三十五度三十九分、經度東二度四十一分、從東都甲州街道三十四里一十一町五十四間半、

甲斐波木井村身延山、片熊町極高三十五度二十三分、經度東二度四十分、從東都甲州街道、經甲府、四十四里七町五十間、

〔日本經緯度實測〕北極出地

甲斐　府中　三五度三九分〇〇秒　身延町　三五度二三分〇〇秒○略中

東西里差

山城　京　〇度〇〇分〇〇秒○略中　甲斐　府中　東二度四五分二三秒

〔甲斐叢記一〕國名

位置

凡本州の地形は、信武相駿の四州に包括られ、其首信駿に信び、腰は武に殺れ、駿東に詘り、足は相に踵る、山梨、八代、巨摩、都留、四郡の全體を三割にして、東を都留とし、西を巨摩とし、中を二に斷て、

疆域